

ローコストで実現

当初10年間は光熱費不要

十勝・岡本建設



出入りは多いがスッキリした外観



南側は窓をできるだけ多く配置した

(株)岡本建設(十勝・幕別町、岡本忠社長)は、太陽光発電と高効率熱交換換気システム、壁200mm相当の断熱で熱損失係数Q値10・69Wを实

現した住宅を先月竣工させた。政府の余剰電力倍額買取制度により、建築後10年間は光熱費の支払いが実質不要となり、逆に年間3万円程度収入が

見込めるといふ。同社では、施主が希望した太陽光発電や熱交換換気システムの採用に加え、グラスウール200mm相当の壁断熱やトリプ

ル樹脂サッシの採用などで、Q値を次世代省エネ基準の2倍以上となる0・69Wとしたプランを提案。光熱費を試算すると、オール電化で暖房、給湯、調理なども含めて年間20万円という値が出た。一方で、太陽光発電パネルは4・4kW分を設置し、当初10年間の年間売電収入試算値は約23万円。光熱費が不要になるばかりか、年間で約3万円の収入が得られる計算。11年目からは買取額が半分となるが、それでも年間の光熱費負担は10万円以下だ。

断熱は壁が2×6でグラスウール140mm断熱に押出ポリスチレンB3種40mmの付加断熱、天井はブローイング400mmなど。サッシは樹脂トリプルサッシ。北面には窓を配置せず、南面に窓を集中させて日射取得を稼いだ。延床面積約68坪と広めだが、暖房は電気蓄熱暖房器6台とエアコン1台で合計20kW程度。給湯はヒートポンプのエコキュート。

今回、断熱強化と省エネ設備の採用、太陽光パネルの設置などを含めても、建築費は坪50万円程度に収まった。岡本専務は、「シンプルで標準的な仕様だったため、さほど建築コストは上がらず、施主の希望する予算におさまった。今後は、グラスウール200mm相当の断熱住宅と太陽光パ

ネルなどを組み合わせた光熱費が実質ゼロになる住宅を主力にしていきたい」と話している。